



7月になり、いよいよ夏本番となりました。気象庁の長期予報によると異常な猛暑に見舞われた昨年ほどではないものの今年の夏も厳しい暑さになるようです。

当院の職員も、例年よりクールビズの時期を早めて軽装で執務に当たっていますが、近年の夏場の暑さは冷房を全く使用せずに過ごせるほど甘いものではないことも事実です。熱中症などの健康被害を引き起こさないよう、体調には十分注意しながら今年の夏を元気に乗り切りましょう。

医師紹介



院長 濱中 喜晴
(はまなか よしはる)

(専門領域) 心臓血管外科
呼吸器外科
(資格) 日本外科学会専門医
心臓血管外科専門医
循環器専門医
日本不整脈学会評議員

(内科外来) 循環器専門医として内科的な診療を担当します。不整脈ではペースメーカー治療が専門です。心臓・血管外科手術後の経過観察・継続治療も担当します。(心臓血管外科外来) 血管外科では、静脈瘤・閉塞性動脈硬化症など下肢の病変について診断・治療を行います。呼吸器外科では、気胸などの肺手術を行います。お気軽にご相談下さい。



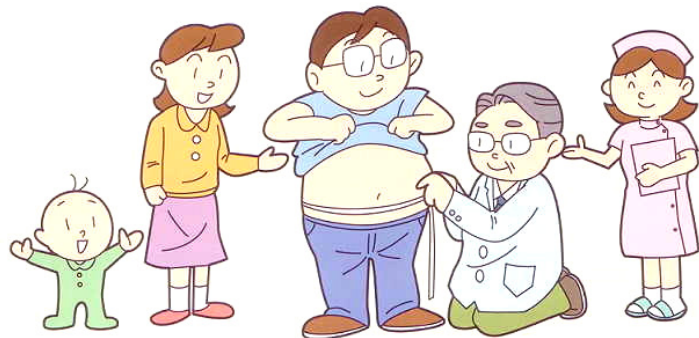
泌尿器科 小野 浩
(おの ひろし)

呉医療センター25年間勤務。泌尿器科領域の癌の診断・治療に携わる。医療センター退職後、当院の泌尿器科外来に勤務。週2回診療の中“火曜日”を担当

当院では、前立腺肥大症や頻尿、尿失禁などの排尿障害の患者さんが大多数ですが、前立腺がんの内分泌療法や膀胱癌、腎臓癌の治療後の経過観察も行っています。週2回の外来診療のみで手術や入院治療ができなくてご迷惑をかけていますが必要時には、近隣(同僚勤務)の病院や大学病院と円滑な連携をとり切れ目のない治療を目指しています。

東日本大震災義援金について
～ご協力へのお礼とご報告～

義援金へのご協力ありがとうございます。皆様から5月末までに193,704円をお預かりし、市社協を通じて共同募金会にお渡ししています。9月末まで行う予定ですので、よろしくお願いいたします。



受けていますか "健康診断"

皆さんは、自分の健康状態をどのように把握されていますか。その方法の一つとして健康診断があります。

健康診断には、職場や自治体の実施するもの、個人で受診するものなどたくさんあります。そこで今回は当院で受診できる主な健康診断をご紹介します。

今年度から、全国健康保険協会(協会けんぽ)の生活習慣病予防健診も受診できるようになりました。健康状態を把握し、異常をチェック!病気を未然に予防しましょう。

主な健康診断

- ・一般健康診断
雇用時の健康診断
定期健康診断(要予約)
船員健康診断
特定業務従事者の健康診断(要予約)
その他の健康診断
- ・特殊健康診断
じん肺健康診断 など
- ・毒ガス等障害者健康診断
- ・結核健康診断・結核管理検診
- ・被爆者健診・被爆二世健診(要予約)
- ・生活習慣病予防健診
協会けんぽ 生活習慣病予防健診(要予約)
東広島市 元気すこやか健診(要予約)
- ・特定健康診査、各種がん検診
東広島市 元気すこやか健診(要予約)
大崎上島町・竹原市・呉市など
特定健康診査(要予約)
- ・行政指導による健康診断
腰痛の健康診断(要予約)

申し込み方法

・個人での申し込みは、「要予約」を除いては予約の必要はありません。受付時間内に窓口までお越しください。来院される際には所定の診断書の用紙等を必ずお持ちください。

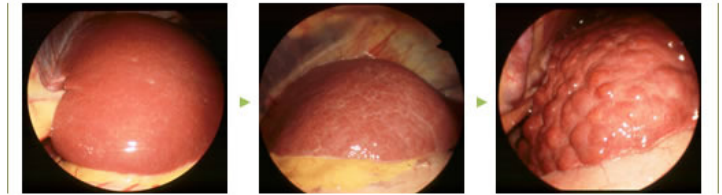
・団体・企業で健康診断を希望される場合は受診希望者数・健診項目等を事前に電話でご相談ください。

総務課 医療経営係

「肝臓病について」

肝臓は人体で最大の臓器です。食物は腸管で吸収された後、肝臓に入ります。我々が生きていくために必要な蛋白質や脂質、糖、ビタミンは肝臓で合成されます。また、肝臓は解毒や血液凝固に必要な蛋白質の合成も行っています。このような働きをしている肝臓の機能が低下した時、倦怠感や体のむくみ、腹水、黄疸、意識障害、出血傾向などの症状がでます。

20~30年間



正常肝臓

慢性肝炎

肝硬変

肝機能異常の原因としてB型肝炎やC型肝炎などのウイルス感染によるものがあります。慢性化した場合、以前は有効な治療法がなく肝硬変や肝臓癌に進行することもあったのですが、現在はインターフェロン療法や抗ウイルス剤の進歩により、治療や病勢のコントロールが可能になっています。アルコール過飲は肝硬変の原因になります。お酒は肝障害が出ない程度におきましょう。過食や肥満の人は肝臓に脂肪がたまり脂肪肝になります。アルコールを飲んでいないにもかかわらずアルコール性肝炎と同様な病態を示す脂肪肝もあります。非アルコール性脂肪性肝炎といい肝硬変や肝臓癌に進展することがあります。体重コントロールが一番の治療法です。有効な薬剤もあり内服治療をすることもあります。それぞれ原因にあった治療をする必要がありますので当院へお越しください。

内科 三浦敏夫
(みうら としお)

編集後記

昨年は、熱中症でなくなった方が1648人と50年間で一番多かった年でした。今年も暑い夏が予想されます。汗をかき体の熱を早くに逃がす事が出来るように!暑さに慣れるよう対策していきましょう。

副院長 吉村 福代
(よしむら ふくよ)

